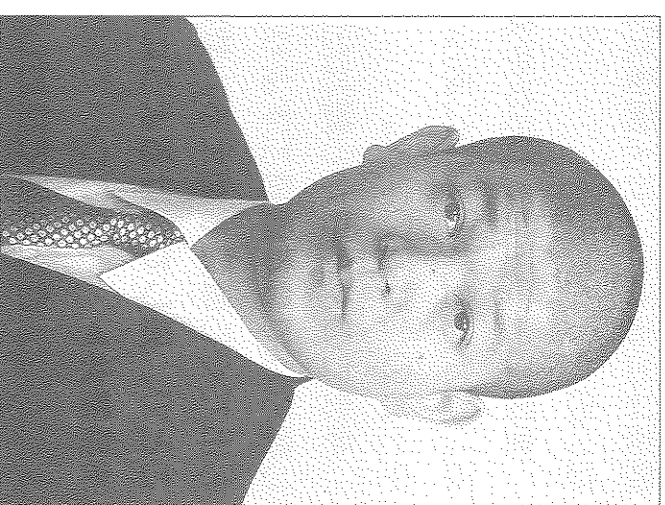
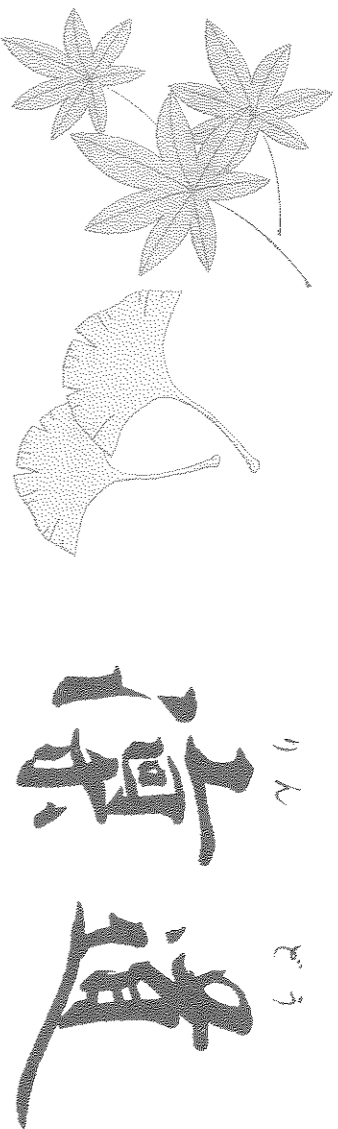


# よしかわ通信



発行

高萩市議会議員

よしかわ とうりゅう  
**吉川道隆**

高萩市安良川686  
 TEL 0293-24-0833  
 FAX 0293-22-3340  
 ホームページ <http://www.douryu.net>  
 E-mail [info@douryu.net](mailto:info@douryu.net)

向寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、ひとかたならぬご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

記録的な猛暑が過ぎた後は、特別寒く感じる今年の秋です。体調管理が出来ず、風邪をひきがちになりますが、今年は去年のようにインフルエンザが流行つてこないのか救いてはならないでしょうか。学級閉鎖や学校行事が中止になることもなく、このままの状態が続くと思っております。

民主党党首となった菅首相。「無難なところで落ち着いた」感が拭えない感じが残りながらも、力もあるが問題の多い小沢氏に委ねるわけにはいかなかった民主党の弱みを感じられます。自民党にとって代わった民主党がこのあと、ねじれてしまった国会をまとめ、どこまで日本の立て直しを出来るのか、不安がありますが、地方は地方です。しっかりと地盤を固め、国の方針に振り回されることなく地域の発展に努めていきたいと思っております。

## 平成22年9月定例議会 一般質問

### 不登校対策について

**質問** まず、現在の学校適正配置の問題について確認したい。不登校対策の一端として君田小中学校を活用することで、統廃合させずに存続させるというところで、質問させていただきたい。

県の方から、学校の適正規模の基準が示されている。「小学校においては、クラス替えが可能である各学年2学級以上となる12学級以上が望ましい。中学校においてはクラス替えが可能ですべての教科の担任が配置できる9学級以上が望ましい。」とされている。そこで、現在の高萩市内の小中学校としては、君田小中学校を今後どうするかということになる。

現在は君田小中学校の児童数は小学校12人と中学校7人だが、25年度には6人と8人になり、27～28年度には小学校6人中学校4人になってしまう。地域との話し合いではどうなっているのか？

**教育部長答弁**▶ 平成20年8月27日に「よりよい教育環境の在り方委員会」を設置、6回協議を行った。君田小中学校については、校舎も新しくなる、松岡小中学校との統合が望ましいという方向性が打ち出された。昨年の8月には、地元の保護者及び関係者と説明・懇談会を開催し、統合反対の意見が出され、教育委員会として慎重に進めてきた。今年度8月、今後の児童・生徒数の推移資料を送付し、十分検討していただきたいと伝えた。

**質問** 地域としては、学校は残したいと思うが、複式学級となっている現状とこれから予想される更なる児童の減少を考えると、統廃合もやむを得ない。

しかし、現在、学区外から君田小学校に通っている子がいるように、大規模校でやっっていくことが苦手な子、

勉強は出来るのに対人関係が苦手で不登校になってしまいう子、そういう子どもの受け入れ先とすることは出来ないのか？

全国で一つだけ、「おかやま希望学園 吉備高原のびのび小学校」という学校通信制の小学校が岡山県にある。豊かな自然と人情にあふれる地域で不登校などの特別な教育支援を必要とする子どもを受け入れている小中一貫の全寮制の学校。

今までの友だちから離れた、少人数の学校でなら登校できるかもしれない。受け入れる側にとつて、常に同じ顔ぶれで9年間過ごすより、新しい子を迎えることはすごくいい経験になる。人数が増えれば、出来ることも出てくる意見も増える。教育的効果も考えられる。私としては、**君田小中学校に別の形で存在意義をつけることで、残していけるように考えてはどうかと思っています。**市長のお考えは？

**市長答弁**▶ 今後については教育委員会が現在進行形で意見をうかがっているところなので、方向性の見えてきた段階で検討していくことが望ましいと思っています。

**教育長答弁**▶ 君田小中学校では、これまでも市内外からの転校生を受け入れてきた。これからも区域外からの転校生の受け入れについて配慮していきたい。

**質問** 私が考えているのは、まずは、市内および近隣市町村の小中学校の中での受け入れ先としてできないかということ。今、不登校で学校へ行けない子どもが時々通う場所として図書館2階の「萩の広場」があるが、そこへ来ている子どもたちを一時的にでもいいから、自然いっぱい君田小中学校で勉強させてあげることが出来るか？受け入れる君田の先生たち、萩の広場で不登校の子どもたちを見ている先生たちがどのように考えてみえるのか、それぞれの声を聞かなければならないことだとは思う。私が頭で考えているより、ずっと難しいことかもしれないので、相互の考えを聞かないといけないが、そのパイプを誰かがつながらないといつまでたつてもつながらない。統廃合になつてしまいう前に、せめて、市内の中だけでもお互いに向かい合うような形で交流することは出来ないか？

京都の、閉校となつたある小学校は、京都大学教育学部と地域が提携し、「地域の抱える課題と向き合つて地域活性の新しいモデル作り」に協力し、生活と学習を組み合わせた新しい学びの共同体づくり」を目指して活動していた。このように、**地域の強い気持ちがあれば、学校の存在を無にするのではなく、いい形で活用するような方向にできる**と思う。提携している東北福祉大学や常磐大学に働きかけてはどうか？

**市長答弁**▶ テリケートな問題なので、丁寧に教育委員会の作業を進めていきたい。廃校の利用には、様々な事例があるので情報収集するように指示したい。

## 吉川の 考察▶

以前から、学校統廃合の問題は提起されてきました。「小学校で各学年2学級以上、中学校で9学級以上」は、あくまでも指針であり、絶対その通りにしなければならないという強制力はないのですが、基本的に学校と言うところは集団生活を学ぶための場でもあるのだから、あまりにも少人数では成り立ちません。確かに、少なければ全部の生徒に目が届く、生活の面でも、勉強の面でも、しっかりと見てあげることが出来ます。しかし、集団に入ったときに、大人の目が届かないところの子どもたち同士の様子も成長の過程で必要なものです。大きくなってから、自分の力で生きていくための力をつけるには、集団の中でもまれていくことも必要だと私は思います。通うのが大変かもしれないが、歩いて通うわけじゃないし、幼稚園は松岡幼稚園や秋山幼稚園などに車で来ているのだから、それよりも子供たちの心の成長を考えてあげるべきではないでしょうか。ただ、地域の人の学校存続に対する熱意が伝わってくるので、なんとか、君田小中学校の存在意義を他に見出すことで、存続につなげることができないかというのが今回の質問の意図なのです。不登校の子どもたちがどこかで悩んでいる、それを、いわゆる「山村留学」で悩みの解消につながらないかなと考えております。